

椿説弓張月

後篇

貳

~13  
3908  
8





13  
3908  
8

鎮西八郎 椿説弓張月後篇卷之二  
鳥朝外傳

東都 曲亭主人編次

第十八回

海東の磯に一箭洲民を伏せ  
大恩が嶋に三郎英雄を認め

かくく鳥朝主従と女護の嶋に船出の南に投と漕と漕や海上  
二十里をうりかたに只半日ふ乗とほして男の嶋にぞ着たり此島は周  
五里のまわりもろくんとおぼしたふ水際の嶮岨を渡る女護の嶋も勝れる  
鳥朝の日のともせん松子も狐曾励しとむじと松をば入道主陸より  
みづの前面を山半腹を切抜く前一方は岡竹の網代又鹿角など  
圍ひし家棟は杖萱むく高三尺なる小菅うた家の内より形ハ潮風吹  
くはるる。崑崙奴のてく眼の光まらりて太白星のてく鬼とも人とも見え

春見号長月後篇卷之二



ころとて男も。むくくと走り出。鳥朝主後次真中ふたり繞し鳴言は  
 ちりりりり。昔よりい一度流され漂る。松ありて。この鳴は歌ふとちりりも。  
 巖高き船を入。遠く吾侪が磯方よ立在。死んでハ。怖れまじりて逃  
 去りぬれ。汝はいふ。膽の太きハ。輒くこつ。ハ。あじそと。何の顔と。し。歌  
 半は。呆れ。と。み。は。と。鳥朝。且。女護の。鳴。ありて。鳴言葉。小。馴。多。く。は。  
 この。鳴。人の。め。い。ひ。が。は。も。彼。れ。ハ。異。あ。ら。び。り。な。れ。が。よ。く。其。ハ。汝。は。死。て。完。奈  
 と。う。ら。め。と。め。な。か。り。や。い。う。な。騒。ぎ。と。これ。を。清。和。天。皇。の。後。胤。六。條。判。官  
 為。義。の。八。男。源。為。朝。と。呼。ぶ。し。り。れ。る。れ。が。故。ゆ。え。伊。豆。の。大。嶋。小。藩。つ。り。去  
 ぬ。東。海。の。嶋。ハ。公。家。より。賜。され。采。地。な。れ。が。残。り。なく。管。領。せ。ん。め。め。  
 する。ぐ。と。呆。れ。し。汝。ハ。君。と。仰。せ。羊。の。負。怠。る。こと。お。ろ。ろ。ん。あ。過。分  
 の。幸。福。の。と。た。と。宣。入。を。嶋。人。ハ。は。も。ゆ。と。と。ら。ち。う。と。や。ん。鳥。朝。と。や。ん。

神胤も。われ。皇子。も。め。れ。配。軍。と。な。れ。う。へ。な。れ。わ。だ。に。お。ね。の。お。り。の。お。り。の  
 の。時。ハ。思。が。察。と。君。と。仰。せ。何。の。好。め。つ。羊。の。負。怠。る。こと。お。ろ。ろ。ん。あ。過。分  
 嶋。ハ。ひ。り。死。し。う。り。歳。ハ。千。歳。お。わ。り。世。ハ。三。十。ふ。及。ぶ。と。り。も。い。ま。君。臣。の  
 義。ハ。締。つ。れ。國。は。這。奴。が。面。魂。の。い。め。し。げ。な。れ。と。め。め。い。う。る。れ。計。較。を  
 みる。う。も。量。か。じ。と。打。仕。て。崖。落。せ。せ。や。て。異。口。同。音。小。罵。れ。お。そ  
 後。者。ハ。顔。ら。う。ら。え。わ。じ。ら。う。く。み。び。れ。ら。い。や。蔑。と。ん。と。や。ひ。ん。肘。を  
 張。肩。が。い。づ。し。主。の。後。方。よ。お。け。れ。何。と。なく。胸。震。し。て。顔。の。色。ハ。海。と。ひ。じ。く。  
 青。と。い。り。て。え。え。り。け。れ。あ。ら。が。も。鳥。朝。の。と。ま。れ。た。け。氣。色。なく。後。者。ハ。尻  
 目。み。え。ち。り。て。持。た。れ。弓。と。矢。と。う。く。又。は。挾。こ。い。う。鳥。人。水。際。お。た。る。巖  
 石。と。こ。お。立。こ。み。され。汝。ハ。肢。體。と。比。べ。い。づ。れ。う。堅。と。同。多。く。鳥。人。ハ  
 大。お。笑。し。その。同。く。ほ。て。も。は。吾。侪。が。身。體。を。血。を。畏。れ。皮。囊。食。ハ

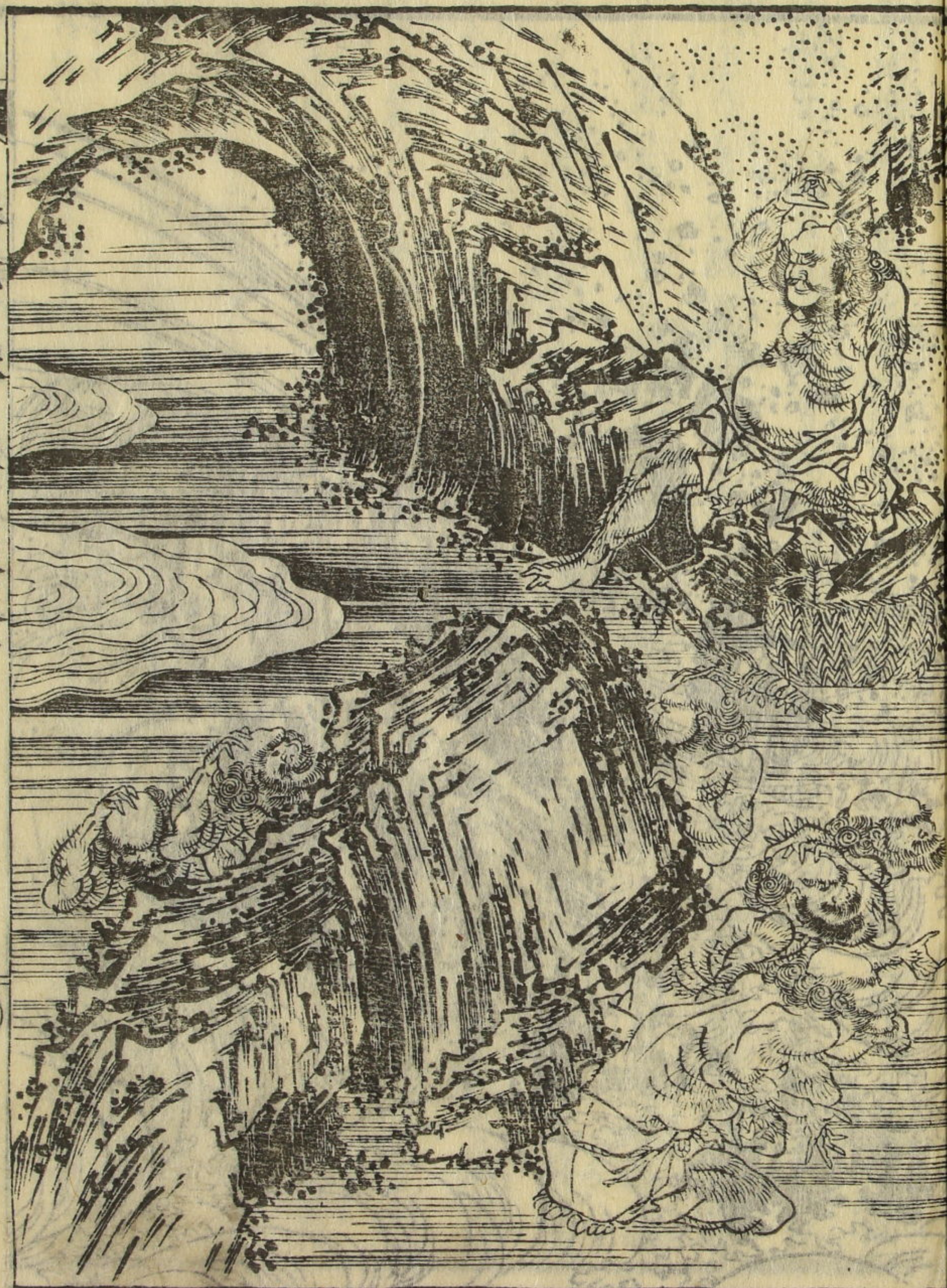
春入長...



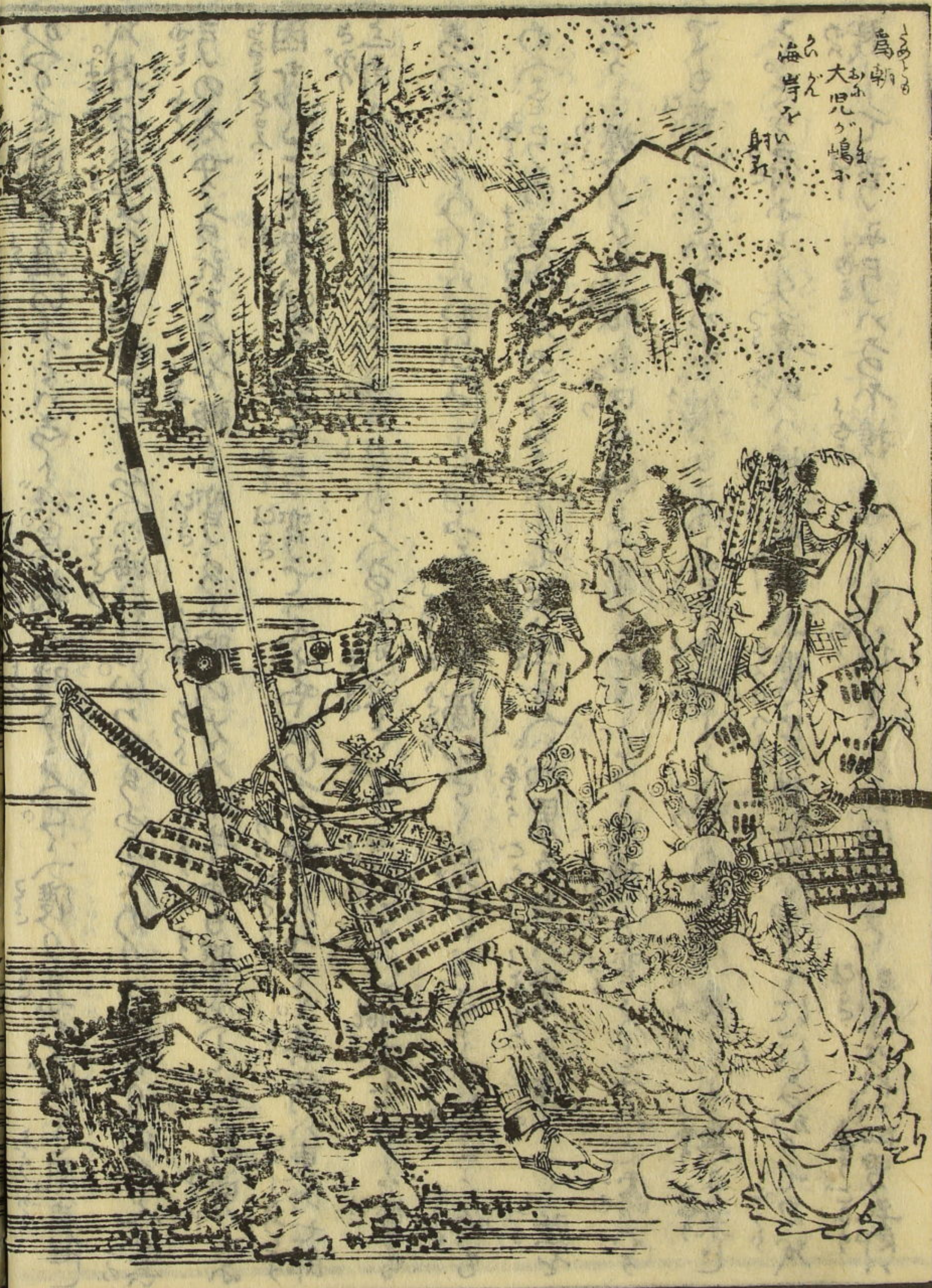
盛る岩みひしし縦三十枚の齒十二枚の助といふもいさで巖よ及つたは  
いふその言いよと果されふ為朝ハ鏑矢とつてさうくさや固め高き一丈ふ余  
まゝに霸王樹められ巖の真中ハ漂佛と射多ハ李廣が虎とつてさうハ  
物ハ巖ハ中よりはつくと折と落々礮とつてかかれ飛ぶ忽地水中ハ撞  
と落れハ巖の潮を吹ぐ浪打入つて陸ハ浸し大地も共ふ震動せり  
鳥人おハハの形勢ハんく色とけしけい只顧呆れくせんさハんく砂  
の上ハ額つたくハ口ハ吾儕眼のりおぐのれ強弓の壮士ともあつて  
ゆら待しつて可憐命ハ喪んといせし悔とさそのひは倘犯  
され罪科を免くも何は仰あ恃しあつたおと後ハれ弓勢やと  
舌ハ巻く感づめけい後者おも中ハつておほえやとけ射と高く張  
てひらけ居られもけいけいその時四男五郎と鳴人その友ハ又

かつて近曾維りふとさハ鳥朝と呼く人さ渡りよつたじと風声せ  
外ハみおはつれが今とさハ海林のいんせもあてありたれありあれえよ其  
弓の太中うられそれを輒く彎り腕の力ハ水牛も勝んじかれ勇士ハ  
因すことさきひられの弓彎てえやとけハ衆人笑く其許ハ東の七郎  
三郎ハあつたはとさハ月力も人さあつて年ハ壯ハハ此二むりも彎り  
あつたはハハハといふを鳥朝傍いさおがしてさハ試よと仰も  
めんと弓の真中ハつて突支多ハ四男五郎ハ掌み唾しつて法を  
あつと握りけい眼も口もさうさうさうさハハ際と彎るとすれと露や  
さも彎ることかたつて彼もよよ是も助よと叫ぶに衆人も真に兼じ  
くさ肩ふとり看或ハ擯鼻禪ハ携り珠数れけいにはさかて力ハ  
裁して彎り弓ハる不撓も中と後よハハハつよく引ふられハ四男五郎ハ





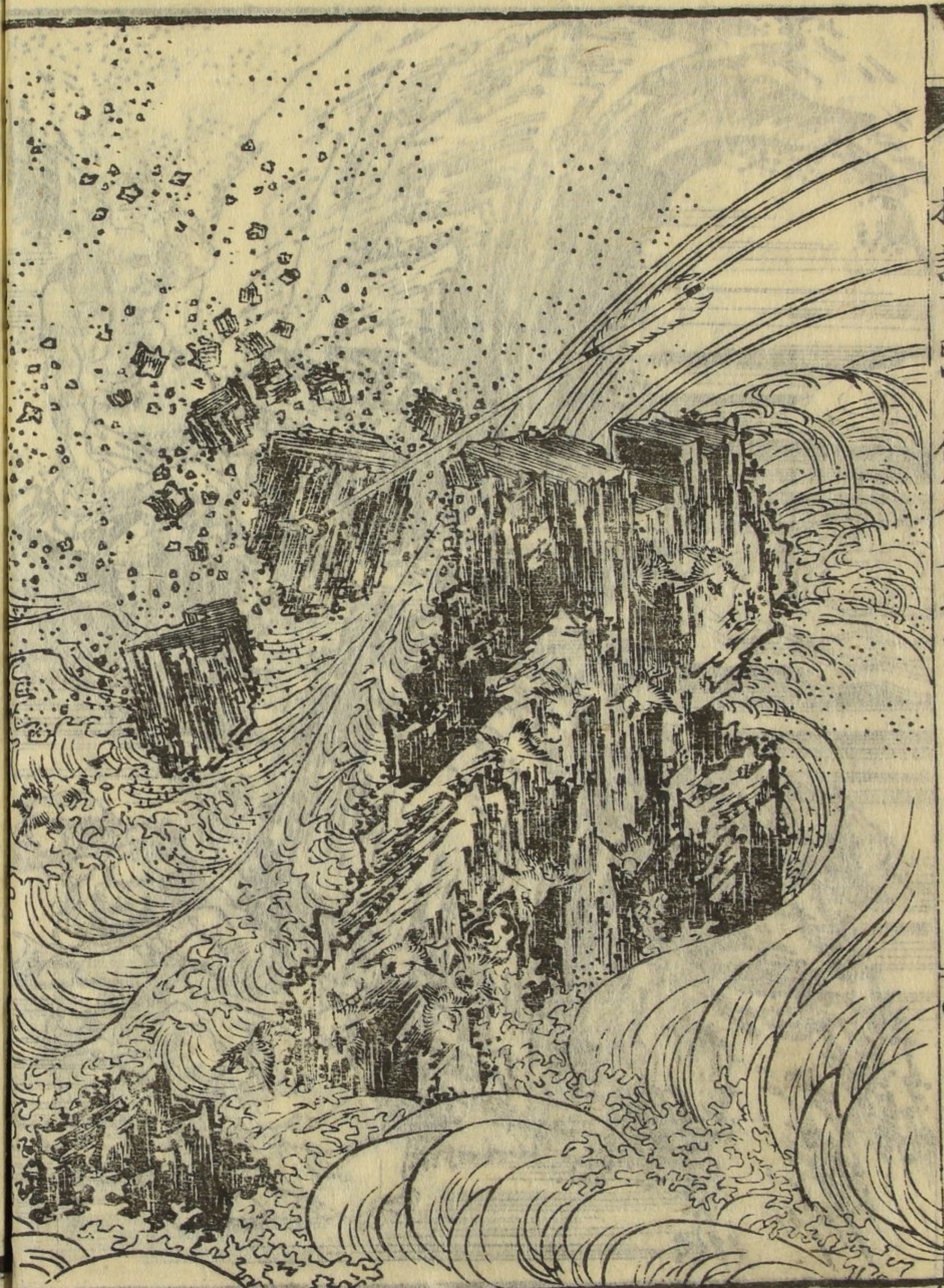
春野記 長月後 卷之二



為朝  
大児が嶋  
海岸を  
射る

春野記 長月後 卷之二





掌成破り。ちりど握りし弦を放せ。衆人仰さふ崩れかゝり。象棋とほ  
 る倒と一かゝ馬朝土佐忍ぶふ堪ど。吐と笑ふま。已むけり。活處も雄手の  
 磯より。年の齡四十をかりわして。顔つれ。落路の面め。たれ。ごりもの。が  
 ざれ。黒髪。の赤く。潮。れ。額の上。ふ。角のせ。ま。う。ん。ご。う。く。兩塊。乃。痛  
 のりて。胸。も。の。さ。う。う。なり。も。足。も。熊。の。中。う。み。く。身。の。丈。も。一。反。さ。く。楮。塗。土  
 の。鬼。は。彷彿。う。れ。嶋。人。海。松。の。こと。と。藤。衣。の。腰。小。纏。ひ。藤。蔓。り。て。編。され  
 畚。の。裏。も。堅。上。魚。四。五。本。と。二。尺。む。わり。も。あ。ね。ん。と。と。ゆる。大。蝦。二。ッ。入。と。と。と。  
 頭。小。戴。た。ま。と。後。さ。は。よ。又。た。つ。ま。み。あ。れ。ば。衆。人。又。く。か。う。く。と。う。ら。ま。ひ  
 二。郎。よ。な。ご。て。遅。く。な。ま。あ。ひ。う。れ。今。如。此。の。中。か。ん。あ。り。し。所。の。の。の。嶋。あ。て  
 名。く。れ。カ。士。ふ。お。の。を。形。れ。ば。彼。弓。彎。て。ん。の。を。と。呼。か。れ。を。彼。男。の。の。と  
 苦。い。し。れ。ち。り。し。て。汝。亦。貴。人。の。戲。と。く。罪。を。な。す。そ。近。曾。誰。り。か。と。は



二、彼君の略々えとて、人々これより生活の便を好むとの由と  
 風声せし、あつれ潜信してその人を侮るをぬらぬ、あつれ笑ひし、今日此  
 びるりのさね下し、これ嚮小彼君と、衆人の回答をこれを外はすて、此  
 魚を漁獲ふれ、是より小烹ゆ、爰ゆ、饗し、す、よ、て、番、四男  
 五郎、お遍と、し、て、為朝の月より、近く、跪きて、リ、ワ、れ、の、僕、の、東、の、七、郎、と、言、ふ  
 嗚、ろ、う、れ、あり、衆人、頭、思、ひ、て、貴人、成、る、も、漫、不、蔑、す、ま、り、し、か、憎、し、も  
 おぼされど、なほ憐、み、愍、を、垂、ま、つ、れ、乃、仏、の、さ、ね、も、え、其、君、の、身、ま、ん、ん、大、  
 神、の、ち、び、し、あ、ふ、こ、の、り、か、れ、乃、君、の、神、あり、い、て、う、敬、ひ、か、と、ほ、さ、る、人、由、  
 生活の便ともおぼふれ、まじらふ、説諭、も、い、ね、と、い、か、け、お、孤、島、の、中、も、人、  
 る、た、ま、の、ん、ん、取、こ、と、い、お、ら、れ、く、あ、た、れ、その、い、あ、知、信、の、り、て、他、嶋、人、小、勝、と、て、  
 え、ゆ、れ、乃、為、朝、う、う、飲、ひ、て、う、て、は、汝、の、東、の、七、郎、と、言、ふ、即、ち、の、り、う、れ、な、れ、高、  
 縁、に、締、と、は、つ、女、見、る、長、女、の、二、人、の、子、を、産、せ、り、抑、為、朝、嶋、を、編、  
 歷、去、年、の、春、女、護、の、嶋、へ、推、渡、り、て、徐、福、が、故、事、成、す、又、この、男、の、嶋、人、と、妹、  
 脊、の、縁、へ、締、と、海、神、の、崇、の、り、と、い、ひ、り、傳、夫、婦、を、う、い、む、て、成、せ、れ、  
 よし、審、ま、せ、く、その、愚、直、か、憐、と、夫、婦、の、人、の、大、倫、を、海、神、の、ぬ、く、と、ふ、  
 づ、た、の、い、ご、今、よ、男、女、ひ、と、う、い、て、耕、作、漁、捕、の、行、う、せ、ん、と、説、示、さ、し、  
 とい、嶋、つ、女、ホ、の、頑、よ、く、あ、ら、れ、く、兼、引、さ、れ、乃、長、女、を、相、語、し、彼、女、と、  
 思、も、二、人、を、産、せ、り、嶋、つ、女、を、あ、て、その、崇、を、成、曉、得、て、男、女、の、り、も、  
 小、位、果、ん、と、お、ら、れ、を、り、く、又、れ、又、の、嶋、人、小、縁、由、と、説、ふ、し、夫、婦、一、つ、小、取、衣、を、  
 ち、の、外、他、ま、は、し、あ、ら、れ、今、の、時、を、え、れ、編、小、女、を、女、護、の、嶋、を、半、を、  
 より、て、ら、の、嶋、つ、男、と、二、を、い、ら、し、て、彼、知、遣、し、又、彼、知、の、嶋、つ、女、と、一、成、  
 いら、て、ら、は、位、せん、豫、く、妹、脊、の、相、語、せ、り、の、の、整、理、し、れ、と、お、く、夫、婦、

縁、に、締、と、は、つ、女、見、る、長、女、の、二、人、の、子、を、産、せ、り、抑、為、朝、嶋、を、編、  
 歷、去、年、の、春、女、護、の、嶋、へ、推、渡、り、て、徐、福、が、故、事、成、す、又、この、男、の、嶋、人、と、妹、  
 脊、の、縁、へ、締、と、海、神、の、崇、の、り、と、い、ひ、り、傳、夫、婦、を、う、い、む、て、成、せ、れ、  
 よし、審、ま、せ、く、その、愚、直、か、憐、と、夫、婦、の、人、の、大、倫、を、海、神、の、ぬ、く、と、ふ、  
 づ、た、の、い、ご、今、よ、男、女、ひ、と、う、い、て、耕、作、漁、捕、の、行、う、せ、ん、と、説、示、さ、し、  
 とい、嶋、つ、女、ホ、の、頑、よ、く、あ、ら、れ、く、兼、引、さ、れ、乃、長、女、を、相、語、し、彼、女、と、  
 思、も、二、人、を、産、せ、り、嶋、つ、女、を、あ、て、その、崇、を、成、曉、得、て、男、女、の、り、も、  
 小、位、果、ん、と、お、ら、れ、を、り、く、又、れ、又、の、嶋、人、小、縁、由、と、説、ふ、し、夫、婦、一、つ、小、取、衣、を、  
 ち、の、外、他、ま、は、し、あ、ら、れ、今、の、時、を、え、れ、編、小、女、を、女、護、の、嶋、を、半、を、  
 より、て、ら、の、嶋、つ、男、と、二、を、い、ら、し、て、彼、知、遣、し、又、彼、知、の、嶋、つ、女、と、一、成、  
 いら、て、ら、は、位、せん、豫、く、妹、脊、の、相、語、せ、り、の、の、整、理、し、れ、と、お、く、夫、婦、



ひくろ鳴居り居り居りし。その昔兼引やいよと伺ふ。東の七郎と申のころ  
 あり。鳴人ホ大ゆ故びいしより年か一度風の便を伝へて。吾妹子感と  
 のころひつね。男女ひとり。海神の祟り。はこれおはると。僕侍や  
 のれ。つりへ君つが。爲お産靈あは。海神と申。のころ。と。雀躍つ  
 天の河原の干深と。なり。二の星ゆ。ふり。入。瀬の。如。羽衣  
 引伸と。貌。似。戀。極。の。浴。も。鳴。も。異。好。と。は。鳥。朝。か。の。七。郎。之。郎  
 對ひ。鳴人ホ。つが。言。成。信。て。聊。も。疑。さ。れ。自。他。の。幸。な。り。つ。あ。不。審。ま  
 女護。鳴。は。那。び。て。鬼。が。鳴。の。り。と。な。れ。女。護。の。鳴。人。ホ。は。これ。を。別。男。の。話。の  
 外。よ。と。え。く。鳴。の。れ。ゆ。な。ま。と。し。つ。り。あ。れ。今。汝。お。か。形。貌。を。な。れ。醜。惡。は  
 あり。鬼。は。似。たり。この。知。し。ゆ。鬼。が。鳴。と。稱。を。後。は。男。話。と。訛。を。我  
 又。別。鬼。と。よ。ば。鳴。の。り。や。その。ゆ。え。に。後。は。女。話。と。宣。へ。東。の。七。郎。之。郎。答。て。此  
 鳴。は。その。む。じ。泰。の。徐。福。は。垂。れ。れ。男。の。童。より。ひ。ら。な。れ。今。も。か。老。小  
 小。拘。と。童。の。は。あ。の。れ。を。り。て。あ。く。大。見。が。鳴。も。よ。り。か。れ。お。お。悪。鬼  
 夜。又。の。謂。あ。わ。り。て。大。り。か。と。お。か。る。り。又。男。の。鳴。と。男。子。の。む。む。な。て。女  
 護。の。鳴。小。對。して。家。が。な。此。時。の。字。な。り。な。ほ。ら。の。好。小。真。の。鬼。の。極。鳴。の。り。や  
 され。分。別。へ。あ。り。ゆ。づ。も。小。爲。朝。占。頭。と。今。汝。が。言。ふ。も。つ。中。大。見。が。鳴。の。縁  
 故。を。發。明。せ。り。も。や。大。つ。の。意。あ。の。れ。お。あ。く。鳴。の。り。や。又。男。女。む。む  
 小。後。む。む。男。の。鳴。とい。ん。も。稱。と。この。荒。磯。の。周。あ。太。太。な。お。蓋。の。生。れ  
 ば。芦。が。鳴。も。な。る。ゆ。よ。と。仰。か。ば。鳴。人。故。ん。と。や。て。芦。を。り。て。鳴。の。名。も。後。世  
 青。島。と。い。ふ。の。芦。が。鳴。なり。と。か。や。こ。こ。絶。小。七。郎。之。郎。の。衆。人。の。り。爲。朝  
 主。後。を。お。の。家。小。誘。引。ゆ。を。魚。肉。果。子。石。決。明。馬。刀。貝。う。ん。と。に。成。異。の。り  
 て。叮。嚀。お。り。て。お。爲。朝。つ。く。え。と。なり。て。昔。徐。福。が。渡。海。の。船。お。七。珍。万。宝



を積してその國の史も記したれが。さる器は伊人なる。これのを下ふひかむ  
よりと宣ふ。七郎之郎と云ふ。いふ人への鳴也。五彩龍鬚の席銀繡  
縁邊の氈八尺象牙の床。緋綾帖薦の褥。馬瑠璃の血。頗梨の壺。陰篋。哀蔭  
笠。打出の巨楯。など。世に愛した。賤物のりし。といふ。父のこめて。千餘年。乃  
聖相を拜ふ。今ハ一ツも持たず。又吾侍の秦人の後裔と云ふ。一文字  
が。不識の。も。終る。い。の。と。回。答。す。其。が。為。朝。の。し。や。憐。れ。お。ほ。し。て。宣。ふ。氏。より。育  
と。の。世。の。常。言。も。さ。る。の。り。の。ま。は。往。古。の。遺。風。と。云。ゆ。ら。山。を。地。牙。て。家。と。す。れ  
死。居。の。み。た。り。と。即。ち。の。こ。ら。も。ひ。つ。その。夜。の。あ。ふ。明。も。ひ。て。次。の。日。七。郎。之。郎。四。男  
五。郎。あ。が。御。導。と。し。彼。此。を。杜。歴。さ。す。ふ。か。ま。の。鳴。人。の。睦。し。た。り。い。は。れ。も。親。族。の。如  
く。あ。そ。さ。り。の。り。の。魚。な。も。戸。毎。小。配。分。一。獲。と。り。の。り。の。魚。を。臊。子。母。し。人  
數。を。洩。さ。れ。これ。を。贈。れ。その。為。体。鍊。直。寡。慾。は。て。万。の。子。滅。公。が。り。て。せ。り。又。あ

鳴不弘法大師の他。た。親。世。音。の。寫。像。の。の。比。り。う。り。裏。不。弘。法。の。子。取。り。て。天。長  
七年七月七日。於。江。嶋。舟。財。天。秘。密。護。摩。一。万。座。奉。行。以。其。灰。此。取。像。他。者。也。空。海。と  
り。為。朝。ふ。く。信。と。て。これ。秘。藏。せ。よ。と。仰。せ。ら。れ。嶋。人。亦。故。に。命。を。棄。逐。ふ。と。が。一  
引。こ。れ。く。為。朝。の。供。一。女。護。の。嶋。渡。り。け。れ。と。も

第十九回

為朝の武威痘鬼が退く  
忠重罪せられて十の指と失ふ

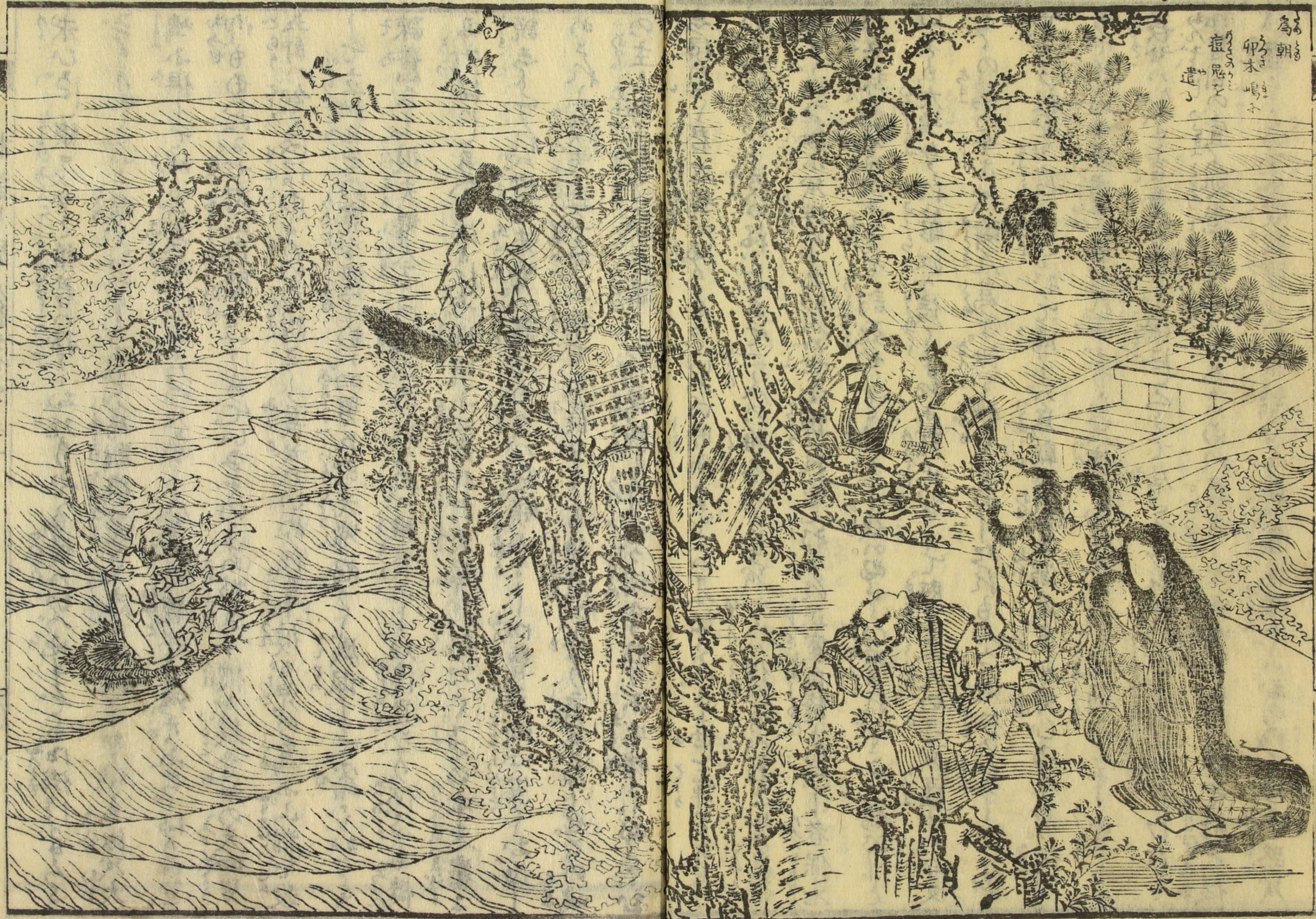
鎮西八郎為朝。八東の七郎之郎。四男五郎。亦。が。と。め。と。して。其。が。嶋。人。駑。が。得  
く。好。む。む。女。護。の。時。一。婦。さ。る。人。の。嶋。つ。女。亦。ぬ。く。故。び。喪。皆。破。方。亦。出。迎。その  
船。が。引。入。り。し。ゆ。の。れ。ハ。親。兄。弟。亦。會。或。と。夫。兒。を。誘。引。つ。お。の。が。家。亦。冊  
れ。と。入。つ。會。話。の。か。ご。く。ハ。書。は。ら。ん。も。ら。く。し。の。づ。その。時。長。女。ハ。父。の。之。郎  
不。對。面。て。送。ふ。その。恙。を。た。よ。め。む。び。な。え。と。て。嶋。人。と。か。ご。も。為。朝。の。庇



小よつと。男女おんなこゝろの縁故ゆかり。つがひもかたも。彼君かのきみに給事たまはせとて  
 維君いじん二人ふたりを産うけつりておぼる。小こ之の郎らうハ満面まんめんニ笑わらを令たまひ。されもさくその中  
 瓜うりたり。さくばえとて。太郎たうらう九く郎らう九くをかりく。小抱こだをのりて。さくか  
 えつ。又長女ながむすめをえつりて。彼此たがひの鳴人なるひと亦また曹司そうしの恩澤おんたくに蒙あづかる。浅あかどとて。こ  
 ども。又また親子おやこハ他人たにんト同一どういつかんと。汝なんぢをつかひて。推子おしこより。養育やしよくをまかせ  
 よと。教訓きょうくんとて。同どうハ爲朝ゐのちハ。その女子むすめも。瓜うりから。て。若わかく。鳴なる人ひと。遣つかへ。共とも陰陽いんやう  
 和合わがひの鳴なる人ひと。は。よて。いし。名なとの。ゆじ。さ。ゆ。の。道みち。が。清きよを。尋たづね。て。し。ら。ふ。と。口くち辯べん  
 たり。と。執とり。み。さ。が。君きみと。仰慕おほこの。あ。そ。爲朝ゐのちハ。中ちゆう本意ほんいと。遂つひて  
 今いまハ。も。ひ。残のこと。と。お。ぼ。せ。す。あ。る。日ひ長女ながむすめ親子おやこハ。宣のたまふ。事こと。これ。假初かりはじめの。の  
 鳴なる人ひと。渡わたり。し。より。既すでニ。一ひと年ねんに。あ。ま。れ。り。され。ば。ち。う。は。大鳴おほなる人ひと。ゆ。じ。子こども。亦またさ。の。の  
 汝親なんぢおや子こハ。任まかせ。られ。ま。れ。ば。さ。あ。も。か。く。あ。も。養育やしよくと。よ。と。せ。え。あ。小長女おほむすめハ。忽たち地ぢに。打う  
 ち。ほ。れ。く。君きみ大鳴おほなる人ひと。ゆ。り。あ。る。じ。つ。の。時ときあ。う。あ。ハ。本ほんは。う。ん。が。一ひと世よと。憚おそり。あ。る。と  
 ち。は。ら。か。ら。及およぶ。福ふくと。せ。あ。て。二ふた人にんの。推子おしこの。ち。う。は。一ひと人にんハ。伴ともひ。ま。ひ。ね。と。い。ふ。爲朝ゐのち  
 せ。え。い。は。汝なんぢハ。伴ともの。が。い。ふ。の。世よを。憚おそれ。の。と。お。ぼ。れ。正室せいしつ白縫しろぬいと。い。ひ。者保ものたもえ  
 の。兵へい乱らんハ。筑紫ちくしふ。干ぬて。討死うちじせ。と。せ。え。後のちハ。あ。ま。び。娶めとれ。と。さ。ゆ。お。り。と  
 い。ふ。も。大鳴おほなる人ひと。か。れ。藤江ふじがが。信まことく。し。れ。小黙こもく止とか。う。て。既すでニ。二ふた人にんの。子こ瓜うり産うむ。今いま又  
 こ。の。鳴なる人ひと。の。女むすめハ。論ろんん。爲なす。汝なんぢハ。側室せきしつと。お。り。た。れ。も。み。る。假初かりはじめの。縁ゆかり。か。ら。ど  
 や。あ。う。れ。を。世よ度よど汝なんぢハ。お。び。て。帰かへら。ば。爲朝ゐのちハ。愛あひ。小溺おしやくと。色いろ瓜うり好このむ。の。人ひとあり。何なにか  
 けて。鳴なる人ひと。を。教し導どうす。と。せ。ん。子こども。ら。瓜うり残のこし。あ。く。と。と。い。か。情願じやうげんふ。こ。と。と。宣のたまふ。小  
 長女ながむすめの。か。へ。と。言い葉はも。な。う。涙なみだは。し。ら。て。居ゐり。け。れ。そ。の。時とき七郎しちらう三郎さんらうサ。け。れ。を。  
 曹司そうしの。宣のたまふ。処ところ采さいく。理ことわりなり。あ。う。の。れ。君きみ々々。大鳴おほなる人ひと。お。り。は。して。鳴人なるひと。後のち  
 小靡おほひく。と。い。ふ。も。股肱こたう腹はら心こゝろの。家いへ隸れいな。ら。ば。事こと小臨おほむ。ハ。お。の。り。く。走路あしぢ瓜うり

小よつと。男女おんなこゝろの縁故ゆかり。つがひもかたも。彼君かのきみに給事たまはせとて  
 維君いじん二人ふたりを産うけつりておぼる。小こ之の郎らうハ満面まんめんニ笑わらを令たまひ。されもさくその中  
 瓜うりたり。さくばえとて。太郎たうらう九く郎らう九くをかりく。小抱こだをのりて。さくか  
 えつ。又長女ながむすめをえつりて。彼此たがひの鳴人なるひと亦また曹司そうしの恩澤おんたくに蒙あづかる。浅あかどとて。こ  
 ども。又また親子おやこハ他人たにんト同一どういつかんと。汝なんぢをつかひて。推子おしこより。養育やしよくをまかせ  
 よと。教訓きょうくんとて。同どうハ爲朝ゐのちハ。その女子むすめも。瓜うりから。て。若わかく。鳴なる人ひと。遣つかへ。共とも陰陽いんやう  
 和合わがひの鳴なる人ひと。は。よて。いし。名なとの。ゆじ。さ。ゆ。の。道みち。が。清きよを。尋たづね。て。し。ら。ふ。と。口くち辯べん  
 たり。と。執とり。み。さ。が。君きみと。仰慕おほこの。あ。そ。爲朝ゐのちハ。中ちゆう本意ほんいと。遂つひて  
 今いまハ。も。ひ。残のこと。と。お。ぼ。せ。す。あ。る。日ひ長女ながむすめ親子おやこハ。宣のたまふ。事こと。これ。假初かりはじめの。の  
 鳴なる人ひと。渡わたり。し。より。既すでニ。一ひと年ねんに。あ。ま。れ。り。され。ば。ち。う。は。大鳴おほなる人ひと。ゆ。じ。子こども。亦またさ。の。の  
 汝親なんぢおや子こハ。任まかせ。られ。ま。れ。ば。さ。あ。も。か。く。あ。も。養育やしよくと。よ。と。せ。え。あ。小長女おほむすめハ。忽たち地ぢに。打う  
 ち。ほ。れ。く。君きみ大鳴おほなる人ひと。ゆ。り。あ。る。じ。つ。の。時ときあ。う。あ。ハ。本ほんは。う。ん。が。一ひと世よと。憚おそり。あ。る。と  
 ち。は。ら。か。ら。及およぶ。福ふくと。せ。あ。て。二ふた人にんの。推子おしこの。ち。う。は。一ひと人にんハ。伴ともひ。ま。ひ。ね。と。い。ふ。爲朝ゐのち  
 せ。え。い。は。汝なんぢハ。伴ともの。が。い。ふ。の。世よを。憚おそれ。の。と。お。ぼ。れ。正室せいしつ白縫しろぬいと。い。ひ。者保ものたもえ  
 の。兵へい乱らんハ。筑紫ちくしふ。干ぬて。討死うちじせ。と。せ。え。後のちハ。あ。ま。び。娶めとれ。と。さ。ゆ。お。り。と  
 い。ふ。も。大鳴おほなる人ひと。か。れ。藤江ふじがが。信まことく。し。れ。小黙こもく止とか。う。て。既すでニ。二ふた人にんの。子こ瓜うり産うむ。今いま又  
 こ。の。鳴なる人ひと。の。女むすめハ。論ろんん。爲なす。汝なんぢハ。側室せきしつと。お。り。た。れ。も。み。る。假初かりはじめの。縁ゆかり。か。ら。ど  
 や。あ。う。れ。を。世よ度よど汝なんぢハ。お。び。て。帰かへら。ば。爲朝ゐのちハ。愛あひ。小溺おしやくと。色いろ瓜うり好このむ。の。人ひとあり。何なにか  
 けて。鳴なる人ひと。を。教し導どうす。と。せ。ん。子こども。ら。瓜うり残のこし。あ。く。と。と。い。か。情願じやうげんふ。こ。と。と。宣のたまふ。小  
 長女ながむすめの。か。へ。と。言い葉はも。な。う。涙なみだは。し。ら。て。居ゐり。け。れ。そ。の。時とき七郎しちらう三郎さんらうサ。け。れ。を。  
 曹司そうしの。宣のたまふ。処ところ采さいく。理ことわりなり。あ。う。の。れ。君きみ々々。大鳴おほなる人ひと。お。り。は。して。鳴人なるひと。後のち  
 小靡おほひく。と。い。ふ。も。股肱こたう腹はら心こゝろの。家いへ隸れいな。ら。ば。事こと小臨おほむ。ハ。お。の。り。く。走路あしぢ瓜うり





橋説百景月夜篇卷之二

鳥朝  
卯木嶋  
痕思  
遣







才たに直ふ長女回答す。時人さく。曹司が慕ひなむ。かく切なれは  
 是彼と名を擇んたり。かこけ且も殿の名を。この嶋も負と下。形か子稀  
 なれ幸ありて他。女子の父を遠子に逢。兄身睦く。夫婦の縁も佳果れど  
 かひるにの我身あて。兄身は。父あ別。又君ふさ捨れ。くも荒  
 磯の嶋の名。八郎と呼び。は君の縁も。佳果れ。くも荒  
 め。いひ入てよ。と泣。曹司の心も。くも。疎に親と。あ。みま  
 理と應。う。これ。や。の。時。より。女。護。とい。か。八。丈。と。稱。ふ。か。の。荒。磯  
 一。が。物。換。り。ゆ。く。世。の。ま。づ。は。ひ。ふ。の。故。り。を。記。す。今。八。丈。と。稱。ふ。か。の。荒。磯  
 と。ま。ふ。れ。た。れ。さ。ふ。又。八。郎。嶋。より。西。の方。海上。二。里。を。り。隔。て。さ。く。中。の。枝  
 嶋。あり。け。り。長。女。の。り。に。別。を。惜。み。太。郎。丸。二。郎。丸。を。か。ね。抱。く。く。小。船。の。り  
 四。男。五。郎。小。掉。こ。して。彼。処。ま。て。送。り。ま。り。さ。島。朝。も。且。く。彼。嶋。小。船。の。り。せ  
 さ。さ。か。小。長。女。が。く。縁。を。推。量。て。彼。を。慰。ん。島。小。折。し。も。岩。が。根。小。生。物。を。卵。木  
 と。ま。折。り。地。上。小。挿。ま。り。ぬ。く。び。ら。ふ。ま。り。て。汝。と。會。日。の。ま。は。この。卵。木  
 更。小。活。す。と。誓。ひ。ま。い。ら。その。積。果。し。て。活。ふ。り。さ。さ。ふ。ら。く。此。嶋。と。今。り。て  
 卵。木。活。す。も。呼。び。又。の。時。長。女。も。つ。が。君。ぬ。く。び。ま。よ。か。と。祝。せ。り。や。り。と。來。嶋  
 或。の。小。嶋。も。名。づ。く。と。か。や。浩。処。小。澳。の。か。さ。り。宋。儀。の。蓋。小。赤。糸。帶。を。建。て。身  
 丈。僅。一。尺。四。五。寸。も。わ。く。と。お。し。と。か。び。と。る。翁。の。上。小。乗。り。く。浪。乃  
 ぼ。く。流。り。よ。る。あ。そ。太。郎。丸。二。郎。丸。ハ。が。縁。を。厭。悪。く。声。高。中。の。し。の。り。も  
 ハ。島。朝。の。翁。を。侍。と。み。は。て。汝。は。是。水。の。怪。殺。地。の。怪。殺。と。退。出。よ。と。叱。り。の  
 ば。公。羽。大。小。怕。と。く。儀。の上。小。拜。伏。し。僕。ハ。魘。魘。罔。兩。の。属。小。あ。い。は。さ。さ。ら。せ。世。小  
 り。の。痘。鬼。是。あり。近。曾。京。攝。の。間。小。あ。り。の。り。の。痘。瘡。を。流。行。し。たる。浪  
 速。の。浦。小。送。り。遣。ら。れ。く。大。洋。に。漂。流。し。の。叙。の。嶋。ハ。ひ。う。り。の。痘。瘡







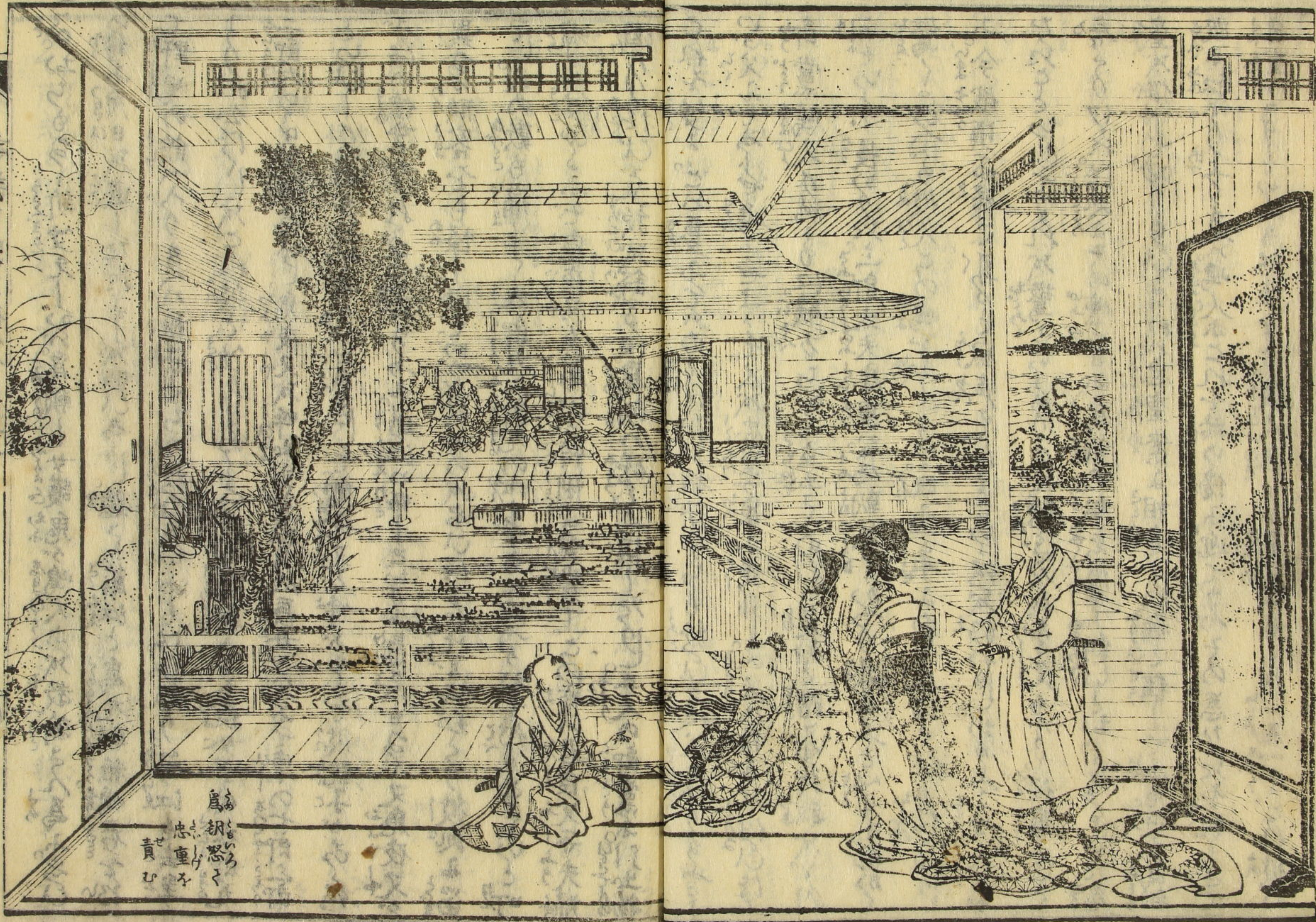
女児めこのがくはてどひほとれど三郎大夫忠重さぶらうだふしんぢうの爲朝ためあさの在あるを却かへるの幸さいと云  
 中なかつ舊病きうびやう發はりて我意がいきよほりして奉勅ほうしやく爲朝ためあさ今いまのゆり多おほし又誰またたれを塔たのふ  
 せんそひ罵ののしるとん流人ながしかて頭かぶの擡たひど只爲朝ためあさの往ゆり慕もむ彼  
 君きみかろしとの私語しごありし忠重しんぢうはくうら腹はらもこれ一已いつごとて成敗せいばい  
 主まれらそ海人うみびとおもふくは物もののそれ茂光もこうとのふゆとふして國府くにふより  
 仰おほせしんふ及およ伏ふせしおののじと尋思しんし遂つひに伊豆いづの國府くにふふよりて  
 先非せんひ以も勸解くんげ年の貞まことと舊ふるふ倍たがして敵たてぶれすはすあぞ茂光もこうも年  
 の鬱胸うつちう忽たち地ぢまひりて忠重しんぢうが罪つとを救すくへ已後いごの貞懈まことこそゆりれす  
 仰おほせれば忠重しんぢう故ゆんぞ大鳴おほなはゆり吹ふのく鳴なくお催ま促せして茂光もこうの貞ま  
 けりかてゆれ今茲いま四月しがつ下旬しんげん嶋人しまびと俄頃がうに奔走ほんそうし曹司そうしの去こ年としより女  
 獲と鬼おにが嶋しまふむせ一人ひとりの鬼童おにわらわがゆてゆり多おほく風声かぜこゑと龍江りゆうかうを中

これをばつここの夢ゆめあてのゆればお稚子わらわすらも故ゆびまへ父上ちちのうへゆりまをよ  
 いか父ちちもあつと進すすませよと人ひとが忠重しんぢうが家いへを走はりし二人ふたりの稚子わらわははひけ  
 郎黨らうたう嶋人しまびとのゆもに磯方いそがたらかく立たち出でたあれ是こゝが漕こ舟ふねがゆり  
 間ませいつ長ながかりれた三郎大夫忠重さぶらうだふしんぢうの爲朝ためあさ急いそぐりゆりまをて父ちちが  
 驚おどくといふも彼人あいつらの嶋しまをゆりて既すでに一年いちねんのゆり一ひとびも信ま信まりし  
 お今いま俄頃がうに歸かへりて風声かぜこゑとこれといひゆりかじおり嶋人しまびとが  
 なたといひてこれに驚おどろきありて驛えきをなれをゆりまをなく從容じゆうやうとして  
 居ゐるのゆれ活いれよその曠あひら昏くらふ爲朝ためあさの船ふねを岸きに刺さしとおどゆりし鬼おに  
 童わらわが俱ともしてゆりまをひまれば忠重しんぢう案あんは相違さうぢの病やまひと稱なづけて生なも迎むかへ爲朝ためあ  
 既すでに船ふねより上ありまへ嶋人しまびとがこれを路みちの傍かたに迎むかへておどその恙やまひなれを祝いわへて  
 忠重しんぢうがゆりまをゆりて衆人しゆじんにしく景慕けいぼをなれ一ひと五ご十じうこれ彼あれ乃

長月後篇卷之二



春記 長月 後篇 卷之三



春記 長月 後篇 卷之三

爲  
 切  
 怒  
 忠  
 重  
 責  
 心











より先忠重へ忽地指がけに人となりて。左右の掌と紅く枝また珊瑚を  
異みん。苦痛に忍びて逃がり。嬉しく恨罵りされ。八郎朝敵と  
この鳴お流され。これとれ他ゆき。憐れいこそ。さしお押領せん。も  
高恩を業さか。威勢に乗し。非道の行ひをさ。も。りれ。あ。く。の。般。ま。た  
水母のごとく。彼いそぐむ。とり世ふ。立。ん。の。怨。ぢ。ひ。あ。せ。や。は。と。い。れ。ま。た  
つ。潜。小。残。方。愈。ふ。は。ほ。ら。て。折。く。の。際。を。窺。ふ。と。い。ふ。も。用。心。堅。固。あ。い。そ。  
それ。打。物。弓。矢。を。持。せ。ど。船。の。出。入。を。絶。え。ま。れ。ば。い。ふ。も。せ。ん。と。い。ふ。只  
徒。ふ。も。ひ。以。焦。し。引。籠。て。も。居。り。り。け。れ。為。朝。ハ。茂。光。が。公。さ。ま。武。士。の。似。や  
る。忠。重。を。賺。し。て。潜。小。貢。を。納。め。ら。れ。む。いと。ね。さ。く。お。ぼ。ろ。れ。を。這。取。り。下  
お。ど。ろ。り。驚。馬。か。さ。や。と。て。それ。と。い。は。し。小。鬼。夜。叉。が。さ。う。海。異。か。り。小。打。粉。  
中。ぐ。伊。豆。の。國。府。遣。い。多。へ。彼。処。の。人。と。れ。を。え。ら。れ。身。丈。八。七。尺。は。ほ。り。と。

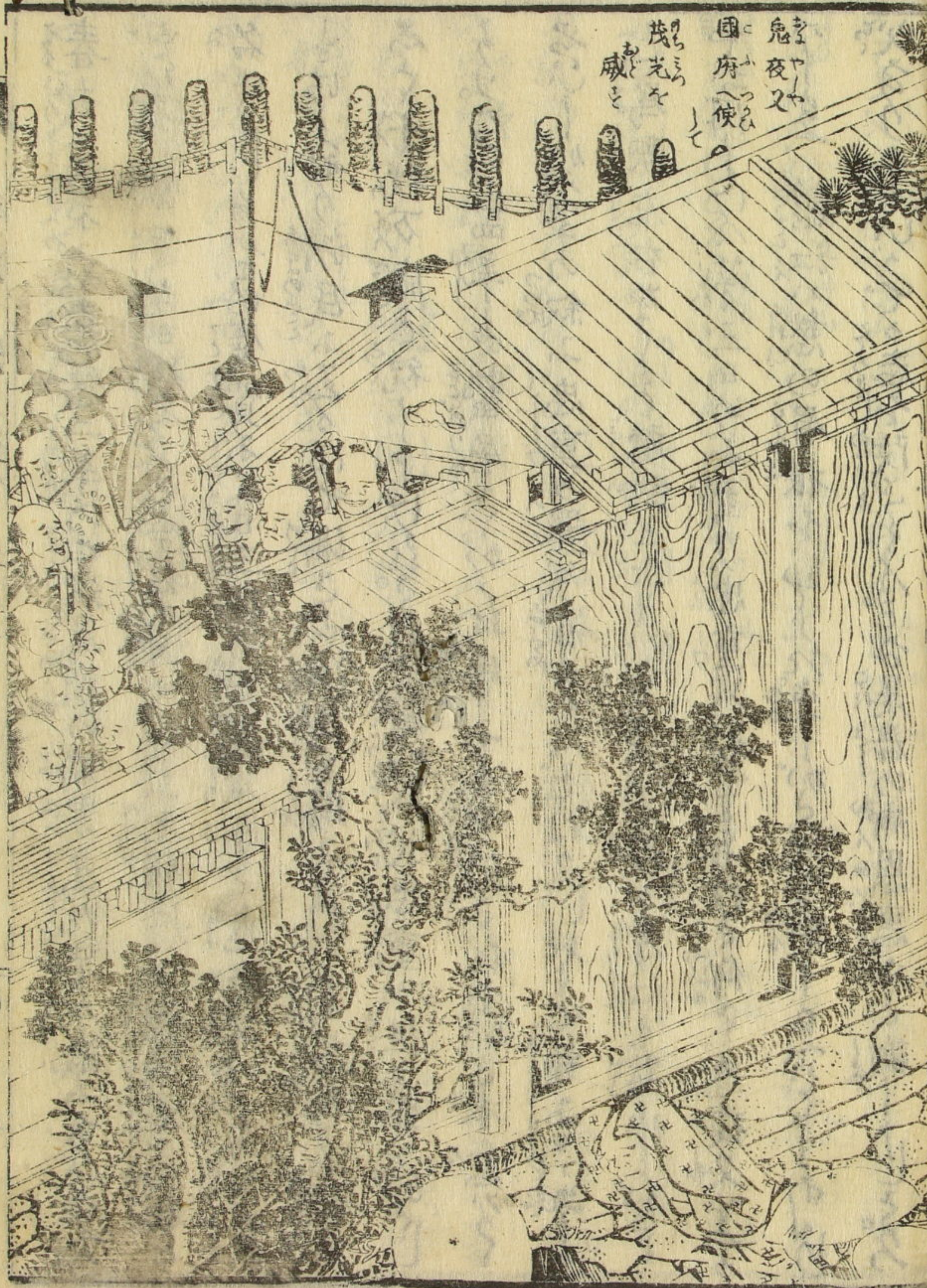
面々夜叉のごとく。形々に額の痛く角と塞ぐ。は。な。が。く。悪。鬼。の。白。唇  
小。横。行。と。い。ふ。と。怪。し。ほ。れ。良。賤。老。弱。の。怕。れ。ま。と。ひ。て。騷。動。を。か。く。と。く  
鬼。夜。叉。ハ。御。曹。司。の。使。者。と。披。露。し。茂。光。が。宿。所。不。到。と。呼。び。門。ハ。茂。光  
主。従。お。ど。ろ。と。怪。し。み。と。て。世。の。風。声。は。違。り。と。為。朝。ハ。鬼。が。鳴。小。社。未  
し。鬼。童。が。將。と。帰。り。り。彼。定。め。て。神。妻。不。測。の。癖。者。な。れ。し。執。心  
し。の。ひ。と。不。覺。又。と。り。形。と。罵。り。せ。り。門。戸。鎖。し。て。裡。に。入。り。こ。ぼ。り。  
鬼。夜。叉。浴。巾。を。笑。み。忍。び。く。馳。り。大。嶋。立。か。つ。り。か。う。く。お。ん。の。ひ  
と。物。が。た。た。ま。為。朝。も。は。こ。と。と。て。笑。坪。入。り。お。り。ほ。と。これ。を。茂。光。が  
譏。奏。の。そ。の。一。條。と。い。ひ。形。り。お。け。れ。

第二十回

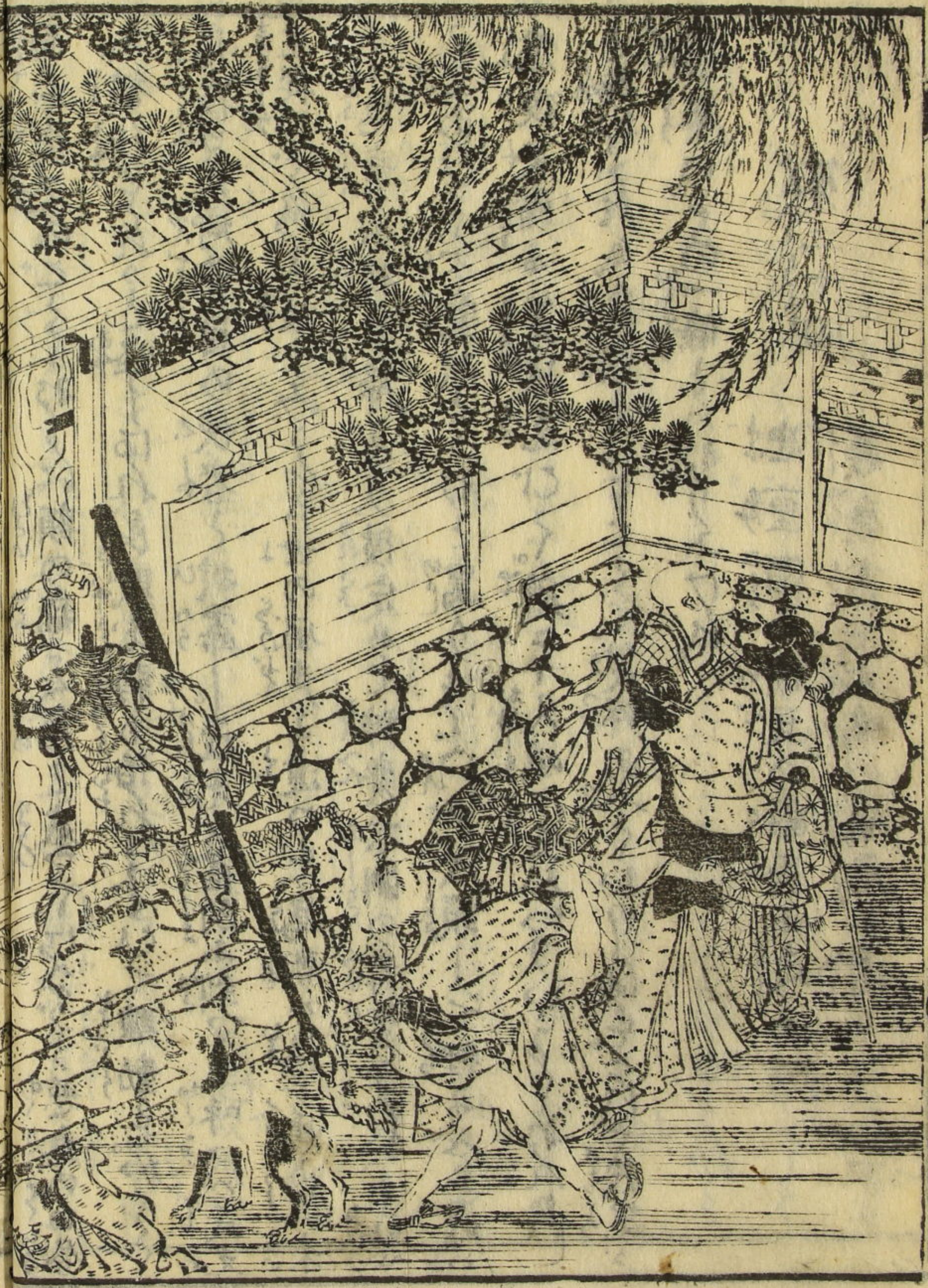
忠重潜小伊豆の國府不走  
義康書と大嶋の竊居不遣

春説書長月夜集巻之三





鬼夜叉  
國府使  
茂光  
威



新説氏月後集卷之三

十九







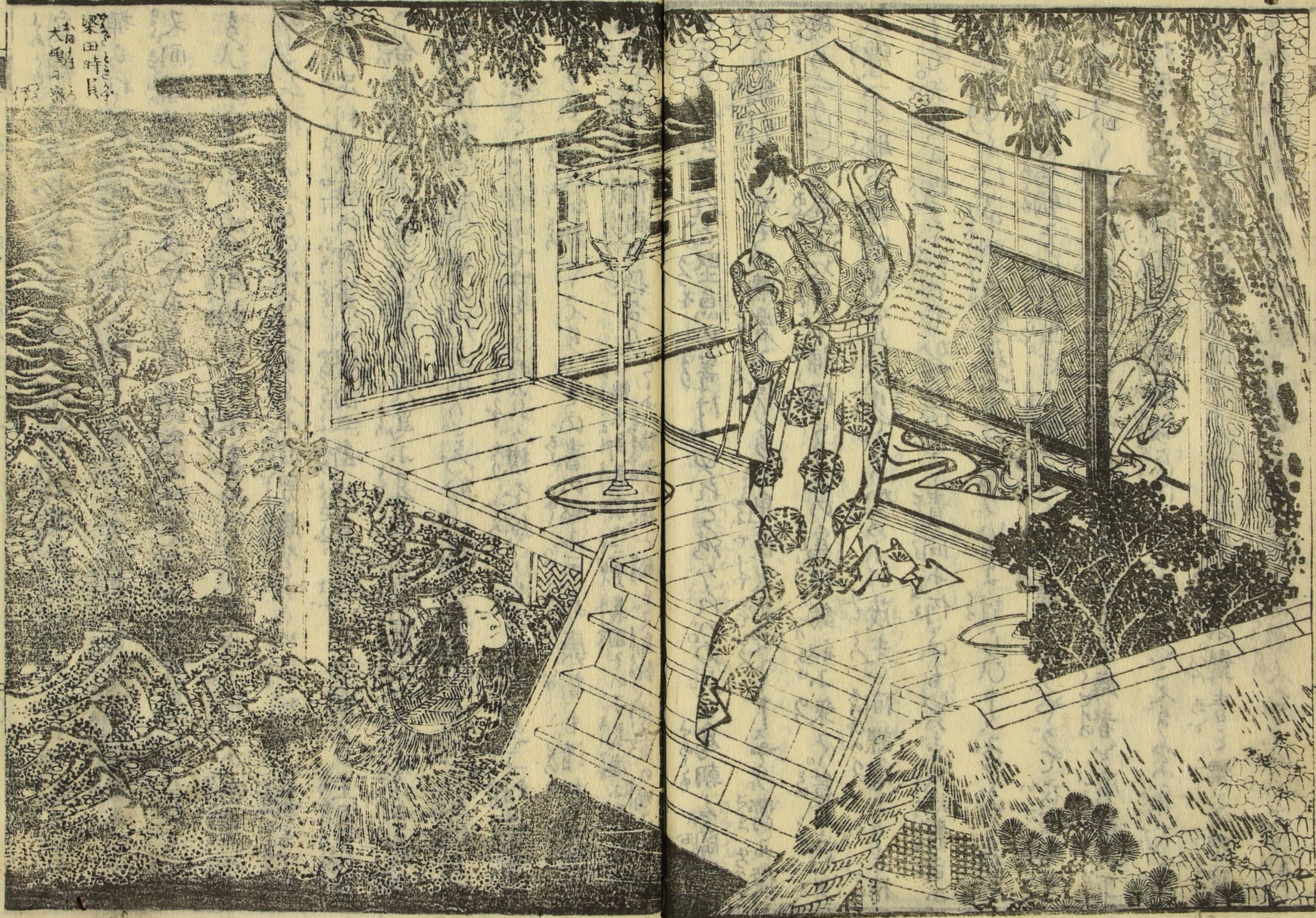




ちのめへ鬼夜又中がてとの刀が奪ひとる。鞋小納めこの物ややむひまふ  
 殿あもゆきの誠忠よくあやうとせえまへ強き離別せんともはあふま  
 されを自殺不及が却殿が恨みに似し。さひ惑ひき過りあふと凍き  
 を。さてへ死ぬるふ死にほとて。輾轉てを泣かぬがけり。ワレの鬼夜又へ彼此  
 を走めりて馬の馳場物のはし引落しの役直にまどま考。するといを  
 為朝御父子の供して。さうらやうが鳴かぬも。落しはあふまをばさ  
 深念し。人あもあふまをひさやうふ。大松一艘を准はして。さうらやうのこ  
 れかこおくぞええし。はるかた。春も徒おられて。四月の上旬おならし。ワレ  
 と。茂光忠重ホが音つれ。那。遠つ灘海難の吼れうた。鳴もせ。暖か  
 なれま。日に和らうらげぬ。浪風へ海難のれ。鳴人が徒然らるるれ  
 も不便なれへ。と。情由はあふまの。魚釣船と。許して。り。櫻鯛と

ところ後とこれ。堅魚の寄けど。ワレと。ワレ。日鳥朝と。岡田の  
 磯小細引にして。その暁昏おゆり。鬼夜又出迎。さうらやう。嚮小僕  
 磯めぐりし。怪し。男と捕ひ。その鳥体釣船。不乗。簑を立て。身  
 小纏。肌小身甲被。さけ。りて。さか。茂光が。間諜者。り。と。猪  
 して。矢庭。縛。く。引。りて。かり。さう。責問。小何。り。も。い。つ。と。只。曹司。小  
 見え。も。さ。ば。る。明。白。な。れ。ど。さう。り。い。ま。計。ら。ひ。や。ま。さ。く。や。と。む。そ  
 め。た。告。れ。ば。為。朝。それ。引。出。せ。し。仰。さ。う。後。廳。小。入。り。や。ぐ。て。衣服。成。更  
 と。端。ら。か。く。出。ま。へ。鬼。夜。又。も。さう。ら。素。衣。と。り。て。彼。癡。者。と。廣。掾。れ。下  
 小引居。り。その。肘。為。朝。の。燈。燭。點。け。し。と。癡。者。を。え。ま。か。小。身。丈。を。六  
 尺。よ。ら。か。く。眼。の。雙。の。鈴。や。け。た。ん。や。う。あ。て。口。方。小。髯。青。と。腰。の。腰。蓑  
 被。く。漢。夫。か。と。え。れ。肌。小。身。甲。被。り。り。び。平。人。さ。う。ら。え。い。か。ば。





梁田時良  
大鳴

椿説弓張月夜篇卷之二

椿説弓張月夜篇卷之二

九二







昔々謀るるせむひ伊豆の國人北條以下の武士お仰ぐ。茂光もよ軍兵  
 を發し一ふふとぞ。かれば官軍しうれおその嶋へ發向せん。足下百發百  
 中の強弓。万夫不當の勇力士たりとも。大厦の將は僵しとぞおそれ。よく一本の  
 柱をたぬゆに。終ぬら折と勢竭く。父子東海の水鬼となりてん。お  
 義康年の齡四十餘れ。おしり子子を奉と備ふ。不幸災憐る子息二  
 人を多くは。義康養子とて。是一つあ足下の武勇と。義康足利  
 の家を興じ。又一つあ足下の子孫断絶よ及ぶしめん。因る腹心の郎黨  
 梁田二郎時負が遣して。心中の機密を告。おらうと惑く。逢く一あり。膝と  
 嚙ともその。ひまうん卒倉の際具ゆせと。請察諸嘉應二年四月日。  
 大嶋八郎殿。源義康とぞ書り。りけ。鳥朝首尾を讀く。らて。卷お  
 梁田時負が縛をとと。宜ひ。は。保元平治の兵乱以來世の中且く

事るに。お似れども。人のこほ。ゆると。穩あ。と。夫と刀。挿と。田と種。婦  
 と。甲。衣と。餉を送。折るん。義康の使者とも。お。ぬ。疑。か  
 れめ。ん。せ。と。れ。つ。過。り。今。示。さ。う。と。こ。う。茂。光。の。讒。言。お。ら。う。と。官。軍  
 を。向。し。れ。と。と。豫。て。お。ひ。設。け。れ。所。な。れ。今。は。に。驚。お。足。下。の。期  
 お。及。び。稚。子。も。お。刺。殺。し。後。中。と。し。壯。く。切。く。名。お。の。嶋。お。苗。め  
 と。生。と。お。勝。れ。り。と。お。あ。れ。義。康。一。家。の。好。を。亡。れ。と。う。子  
 ども。お。乞。ふ。事。實。お。黙。止。か。と。を。い。ふ。ま。せん。り。その。望。よ。任。せ。れ。死。の  
 鳥。朝。配。軍。と。し。と。恩。愛。お。惑。濁。し。その。子。お。國。地。に。け。し。て。人。お。養  
 け。ら。り。お。ん。ど。死。後。お。い。れ。ん。も。朽。を。か。れ。し。嫡。男。お。為。頼。と。近。曾。元。服  
 け。た。れ。を。世。の。人。も。お。き。り。て。そ。あ。れ。と。二。男。朝。維。ハ。年。僅。お。七。五。六  
 とも。稟。性。思。慮。の。り。て。兄。お。も。お。ら。と。と。これ。を。と。と。と。明。白。お。ら。り。に。







